

令和5年度事業の振返りについて

『武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針』評価・検証方法

○モニタリング評価

無作為抽出などによる市民アンケート調査や市民団体・施設利用者に対するアンケート調査を行う。アンケート調査の内容は事業・施設への評価や期待すること、対象者の施設との関わり、関わったことによる効果・影響などとする。

○ソーシャルインパクト評価

本施設の啓発活動によるごみの量や温室効果ガスの排出量、エネルギー使用量、上下水道使用量などの増減状況や、太陽光パネル、燃料電池、雨水浸透施設の設置数などを把握するほか、環境問題に関心のある人の増加状況をアンケート調査により把握し、効果を測定する。

○施設利用者数

施設への来館者数だけでなく、出張型の取り組みの参加者数も含めた指標とする。

○SDGsへの貢献度

SDGsのどの項目に該当する取り組みかを事業ごとに事前に示し、モニタリング評価やソーシャルインパクト評価などにより、SDGsへの貢献の可否を判断する。

また、様々な事業を行う中で、SDGs17項目のどの項目に該当するかを予め明示しておくことで、事業参加者にSDGsを意識づけていく。

令和5年度事業の振返りについて

◆来館者数（4月～1月末分を集計）

年度	総来館者数
令和5年度	69,918人
令和4年度	40,294人

年度	小中学校の見学		その他団体の視察	
	クラス数	人数※	団体数	人数※
令和5年度	29クラス	760人	39団体	1,016人
令和4年度	24クラス	695人	30団体	332人

※総来館者数の内数

- 総来館者数は約3万人増加
- 小中学校、その他団体人数も増加

令和5年度事業の振返りについて

◆各事業の参加者数（4月～1月末分を集計）

事業名		期日	内容	令和4年度	令和5年度
イベント	むさしの環境フェスタ	11/19	市民啓発とともに、市民団体等の活動発表や交流を図る。	2,228人	5,753人
	エコ・チャレンジ（講演会含む）	3/9	エコレポート事業等の参加者が、一堂に会し情報交換、交流する。	1,112人	—
連続講座	環境の学校	10～2月 全8回	環境全般や市内の環境問題を学ぶ連続講座。サポーター参加につなげていく。	50人	86人
	Youthプロジェクト	10～3月 全8回	高校生・大学生が環境問題、社会課題の解決に取り組む連続講座	57人	39人
ワークショップ	夏、冬、春のワークショップ	7/22～ 8/20	年3回、1か月程度の期間を設定し、20件程度のワークショップ・講座を実施。市民団体の活動の場 (参加者数は、来館者数を集計)	7,299人	7,897人
		11/20～ 12/24		5,770人	6,853人
		3/16～ 3/31		3,547人	—
自由来館対応 1階運営	ものづくり工房	通年	常設のワークスペース。廃材利用し自由に工作できる。	100～250 人/日程度	100～250 人/日程度
	フリースペース展示	通年	イベント等で作成したパネル等の常設展示	—	—
その他	環境展	6/1～ 6/30	6月の環境月間に合わせて、環境に関する施策についてパネル等を展示	5,589人	5,701人
	緑のカーテン	6～9月	はゴーヤ苗を配布し、生育記録等のレポートを提出してもらう。	270世帯配布 レポート27件	180世帯配布 レポート57件

○総じて増加傾向

令和5年度事業の振返りについて

◆来館者アンケート結果（集計にあたり無回答を除いた）

Q1 気づきや学べたことはありましたか？

	あった	なかった
環境展	27 (77%)	8 (23%)
夏のワークショップ	267 (91%)	28 (10%)
冬のワークショップ	88 (85%)	16 (15%)
環境フェスタ	82 (93%)	6 (7%)
合計	464 (89%)	58 (11%)

Q2 環境について何か取り組んでみたいと思いましたか？

	思った	思わなかった
環境展	16 (64%)	9 (36%)
夏のワークショップ	205 (89%)	26 (11%)
冬のワークショップ	62 (80%)	16 (21%)
環境フェスタ	78 (89%)	10 (11%)
合計	361 (86%)	61 (15%)

○来館者を母数とするアンケート結果ではあるが、概ね8～9割の来館者に気づきなどの機会提供ができています。

令和5年度事業の振返りについて

Q3 当施設に平均何回来られていますか？

	初めて	月に1～3回	月に4～6回
環境展	17 (39%)	25 (57%)	2 (5%)

	初めて	年に1回程度	月に1～3回程度	週に1回程度	週に3回以上
夏のワークショップ	115 (31%)	86 (23%)	156 (41%)	18 (5%)	2 (1%)
冬のワークショップ	31 (28%)	19 (17%)	48 (44%)	6 (6%)	6 (6%)
環境フェスタ	33 (31%)	35 (33%)	35 (33%)	2 (2%)	0 (0%)
合計	179 (30%)	140 (24%)	239 (40%)	26 (4%)	8 (1%)

- 3割前後が初来館であり、施設認知は広がっている。
- 月に1～3回程度来館される方が多い。イベントやワークショップなどの利用による再来館ではないかと推察される。

まとめ

- 来館者数や各事業の参加者数は増加した。
- アンケート結果から、来館者は一定の気づきを得られている。
- アンケート結果から、初めて来館される方が3割程度、月1～3回程度来館されるリピーターが4～5割程度であった。
- ・コロナ禍後、初めて年間を通じて事業を展開できたことで、来館者が増加し、施設認知度の向上に繋がったと推察される。
- ・啓発の効果については評価が難しい。引き続き評価方法について検討していく必要がある。令和6年度は、アンケート項目及び収集方法について検討する。

令和6年度の事業予定について

令和6年度の事業予定について

◆ワークショップ（1か月程度）		
夏、春の ワークショップ	子ども・子育て世代 200～400人/月程度	年3回、1か月程度の期間を設定し、20件程度のワークショップ・講座を実施。市民団体の活動の場にもなっている。
	○夏・春と毎週土日開催を試行⇒土日は催事のイメージを醸成	
◆1階運営、自由来館対応（開館日、1年間）		
ものづくり工房	子ども・子育て世代 5,000人/月程度	常設のワークスペース。廃材利用し自由に工作ができる。来館者の大半を占めている。受付及び安全管理
	○まちから廃材提供を受ける⇒まちの活動を周知、地域連携を推進	
フリースペースの展示	市民全般 50～100人/月程度	イベント等で作成したパネル等の常設展示
	○アート制作物	
カフェスペースの運営		
	○開設準備、提供品を地域から入手、土日運営を試行 ⇒滞在時間延長を促進、来館者層を拡大、地域連携を推進	
◆その他（次ページへつづく）		
環境展	市民全般 50～100人/月程度	環境月間（6月）に合わせて、国の環境施策などについて周知するためのパネル展示等
	○環境展（気候変動に関連した企画展）	
	○YouthPJの企画を試行（朝活、ナイトシアター、サードプレイス） ○出前講座を試行 ⇒誰もが参加しやすいイベント事業を醸成、⇒政策テーマを周知	
市政策との連動事業 （生物多様性）		
	○アプリを使ったデータ収集、講演会 ⇒誰もが参加しやすいイベント事業を醸成、⇒政策テーマを周知	

令和6年度事業予定について

◆その他（前ページからつづき）		
緑のカーテン	市民全般 200～250人程度	レポーターを募集。レポーターにはゴーヤ苗を配布し、生育記録等のレポートを提出してもらう。
	○苗入手・配布、参加者ケア、レポート回収、発表会開催 ○育て方講座、土のリサイクル講座、 観察講座 ⇒ 育成・収穫だけでなく、観察することを促進	
出前講座	○プログラム作成、館内で試行（子育て施設、学校等への提供を目指す） ⇒ アウトリーチ事業を推進	
情報発信		日常的なSNS発信のほか、イベントではプレス、市報、チラシ、市HP・SNS、エコリゾHP・SNS、申込みフォーム作成、副読本など
	○プレス、市報、チラシ作成、HP、SNS記事作成⇒ 適時適切な広報を推進	
来館者アンケート	○アンケート項目の再検討 ○クラウド上のフォームによるアンケートを試行 ⇒ 事業評価、事業改善につなげる	

まとめ

- 受動的なイベント参加をきっかけとした、自身の環境配慮行動や主体的な姿勢に繋がる意識変容の仕組み化を試行・検討する。
- 利用を通して日常生活の場となるよう、カフェ運用などにより心地よいアクティビティづくりに繋げていく。
- 啓発効果などの評価方法について検討する。